

# ESDって？

ESD (Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育)とは、2002年に日本が提唱した地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育です。

ESD において、子どもたちに教えるべき現代社会の課題として文部科学省は、「環境」「国際理解」「世界遺産や地域の文化財」「気候変動」「生物の多様性」「防災」「エネルギー」などをあげています。

本校では、ESD にかかわる分類を

「みんなが住みやすい町にしよう」

(人権・福祉・消費・防災・健康・平和・労働)

「自然を守ろう」

(環境・エネルギー・気候変動・生物多様性・海洋)

「伝統文化を受け継ごう」

(地域の文化財～石見神楽・郷土料理・方言・華道茶道  
石州瓦・石州和紙～)

とし、学校全体で取り組むこととしました。

また、2015年に国連サミットで採択された「SDGs(Sustainable Development Goals 持続可能な開発のための目標)」は、将来にわたって世界中の人々が豊かに暮らしていくために、達成すべき17の目標及び169のターゲットにより構成されています。

そして、ESDは、SDGsのターゲット4.7に位置付けられています

SDGsは目標を示しているのに対し、ESDは目標を達成するための方法を指していると言えます。

